研究部会　活動報告書　（2024年度）

研究部会の名称

消費者市民研究部会

研究部会の活動目的

生活・市民活動や市民視点で行う研究活動から見えてくる廃棄物・資源循環の課題について意見交換・調査研究を行い、その成果を発信するとともに、廃棄物・資源循環に関心を持つ市民の連携を促し、もって持続可能な循環型社会の形成に資することを目的とする。

研究部会の設置期間　5　**年のうち、今年度は**　2　**年目**

当該年度の活動実績

活動実績を冊子体などにまとめている場合は、それを提出してください。
そうでない場合は、以下に活動実績を記述してください。

① 年次研究発表会における企画セッション設定の有無　（有）　　←どちらかに〇
（「有」の場合　⇒　企画セッション名とその概要と総括）

企画セッション名：市民フォーラム：「日本のリペア文化復活に向けて」

セッションの概要と総括：
プログラム
1.開会の挨拶
2.市民展示の出展団体発表
3.山見拓氏講演
　質疑応答
4.閉会の挨拶

2024年度の市民フォーラムは、9月9日(月) 15:15～16:45、「日本のリペア文化復活に向けて」と題して、消費者市民研究部会、研究発表会実行委員会の共催で開催された。研究発表会会場とZoom配信のハイブリッド方式で開催された。
消費者市民研究部会長の岡山からの趣旨説明の後、まず、市民展示出展団体10団体から発表があった。次に、ひのでやライフ研究所の山見拓氏より、「日本のリペア文化復活に向けて」と題して、話題提供があった。まず、山見自身が取組んでこられたさまざまな事例の紹介があり、次に修理の際に課題となる交換部品の入手困難問題に対する一つの解決策として3Dプリンターとそれら最新の工作機械が使える環境を提供するKyoto Makers Garageを取り上げ、部品再生など修理への活用可能性と課題について事例を交えて解説いただいた。さらに国内外の動向や関連事例についてもわかりやすく解説いただいた。
本企画には、会場とオンラインをあわせて60名強の参加があった。参加者からも、いろいろな事例が聞けて大変参考になった、などと好評であった。

② 研究部会独自の活動について

・本年度は、まず廃棄物資源循環学会より、有功賞（活動部門）を受賞した。
・春の研究討論会：廃棄物資源循環学会員有志によるセミナーD「ごみ箱サミット～ごみ箱の向こう側にある資源循環～」において、当部会メンバーの小寺正明氏が管理しているFB「世界のごみ箱・分別箱展」の取り組みを紹介した。
・定例会（基本的に毎月、第一水曜日、19:00～）
19:00から20:00までの前半は「サロン・ド・ごみ」として、市民団体の方などを招いてオンラインで話題提供をしてもらった。
・市民展示への出展
年次研究発表会においては、実行委員会企画である市民展示に出展した。
・学会誌市民編集号、循環とくらしへの編集協力
等